

「主体的・対話的で深い学びの実現に向けたICTの活用」

行田市教育委員会・行田市立東小学校

1 行田市のICT活用目標について

GIGAスクール構想において、国は「1日1コマ分程度、児童生徒が1人1台環境で学習できる環境の実現」を目標水準としています。

本市においても、「まずは授業で使う」というところから始め、さらに「効果的な活用」そして、「充実した活用」へと繋げていくよう以下のステップにて活用を推進しております。

【ステップ ①-1】達成時期—令和2年度

- ・操作研修等にて、まずは教員が技能を習得する。また、学校間でオンライン会議システムを積極的に活用し、情報の共有を図る。

【ステップ ①-2】達成時期—令和2年度

- ・各クラス1日1回以上、活用し、児童生徒が操作技能を習得する。

【ステップ ②】達成時期—令和3年度

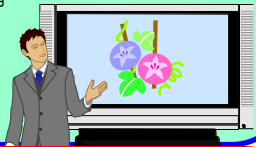

- ・端末等を活用し、課題の提示、提出、調査活動、発表などを行う。
- ・各クラス1日2回以上の活用。

【ステップ ③】達成時期—令和4年度以降

- ・協働学習への活用。各クラス1日2回以上の活用。

2 活用における学習場面に応じた段階的活用

本市の授業改善指針である『うきしろスタンダード』を軸に、それぞれの学習場面の中でタブレットの効果的な活用により、個別最適な学びと協働的な学びが活性化され、より知識・理解の定着や思考・判断・表現の充実が図られるよう推進していきます。

導入	「問い」や「思い・願い」を引き出し、学習課題を明確にする	<ul style="list-style-type: none"> ・なぜ～なのでしょう。 ・なぜそう思ったの。 ・本当にできるのかな。 ・～は、全てにあてはまるのかな。 	<h4>1. 「問い」の引き出しと問題の理解</h4> <ul style="list-style-type: none"> ・様々な資料を比較したり、関連付けたりする。 ・既存の知識を利用し、与えられた文章・図等を理解する。 <p>【活用例】</p> <ul style="list-style-type: none"> ☆学習資料（動画等）の拡大提示装置での提示（学習者機への提示） →導入の説明を明確化するために画面共有 ☆共同編集ファイルの作成と共有 →気づきや考えを記入する。 ☆カメラ機能の活用 →情報収集や記録の一手段として活用。 
	課題の追究・解決の見通しをもたせる。	<ul style="list-style-type: none"> ・今まで学習したことで、使えそうなことはないですか。 ・解決するために、どんな工夫ができそうですか。 ・～は、どんな働きをするのかな。 	
	課題の追究・解決に取り組ませる。（ペア・グループ）	<ul style="list-style-type: none"> ・どうやって考えたのかな。 ・もう少し詳しく聞かせてください。 ・似ている考えを集めてみよう。 ・～さんと～さんの意見はどこが違うのかな。 	
展開	課題の追究・解決をより深める。	<ul style="list-style-type: none"> ・～と～を比べて考えるとどうですか。 ・～の視点から考えるとどうですか。 ・言い換えるとどういうことかな。 ・～と～をまとめるとうなりますか。 	<h4>2. 問題の解決・共有</h4> <ul style="list-style-type: none"> ・仮説や見通しに基づいて問題を解決する。 ・他者の解決方法を知り、自分の解決方法との共通点・相違点を理解する。 ・他者の意見を参考に、自分の考えや解決方法を見直したり、深めたりする。 <p>【活用例】</p> <ul style="list-style-type: none"> ☆ホワイトボード機能の活用（協働編集） →付箋機能も用いて、お互いの意見を共有し合う。 →互いの意見を比較・分類・関連付けをする。 ☆拡大提示装置で学習者機を全体へ提示 →様々な考え方を全体ですぐに確認。全体の考えをまとめる。 ☆ビデオ機能の活用 →グループ発表等の様子を録画し、全体で共有したり、自身の学びを振り返ったりする。 
	ねらいと対応して自分の言葉で振り返らせ、新たな学びへの	<ul style="list-style-type: none"> ・出た意見の中でどれが一番納得できましたか。 ・まとめると、どういうことですか。 ・今日の学習で分かったことは何ですか。 ・日常生活に使えると思ったことはありますか。 ・もっと調べてみたいことはありますか。 	
終末		<h4>3. 問題の熟考と学習の振り返り</h4> <ul style="list-style-type: none"> ・解決して得られたことや解決方法の過程及び結果について振り返る。 ・まとめから新しい情報や問題点・視点の共有と次の学びへの接続。 <p>【活用例】</p> <ul style="list-style-type: none"> ☆アンケート機能や小テスト機能の活用 →学習を受けて、児童生徒の考えを集約し、次の学習に生かしていく。 →学習内容の定着や発展的な考え方を広げられるよう、適用問題を作成し、学習内容の定着状況を確認する。 	

先進的な取組～行田市立東小学校～

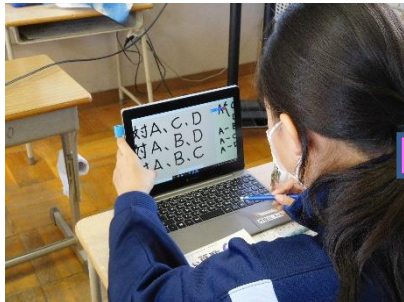
1 実践事例の紹介：Microsoft Teams のホワイトボード機能を活用した授業実践

(1) 単元名 並べ方と組み合わせ方（6年算数）

(2) 本時の目標

組み合わせについて、落ちや重なりのないように調べる方法を考え、図や表などを用いて調べることができる。
【思考力・判断力・表現力等】

(3) 授業におけるICT（タブレット）活用について



ア 自力解決の場面において、一人一人が考えた方法をタブレット上の付箋に書き込んでいく。

イ 画面上で、付箋に書き込まれた友達の考えと自分の考えを比較・分類しながら、グループの考えをまとめていく。

ウ 教師は、各グループにおける付箋の分類作業について、ホワイトボードで確認し、学級全体での練り上げで取り上げる内容を見取っていく。



エ 各グループでまとめた考えを大型モニターに提示し、学級全体でそれぞれの考えの共通点・相違点をまとめ、練り上げていく。

本時の目標の達成のみならず、友達との協働的な学習活動を通して、言語活用能力の向上が期待できる。

2 成果と今後の課題

本校では、今年度より導入した「デジタルワークショップ型授業研究会」を通して、教員自ら ICT の効果的な活用方法を考えられるようになり、その結果、本実践事例のような子供達の協働的な学びの姿につながった。

この Microsoft Teams のホワイトボード機能を活用した話し合い活動は、撮影した画像やコメントを即時に共有できる利点があり、子供たちの主体的・対話的で深い学びを一層充実できるものになると考える。

今後も、本授業研究会を継続・発展させ、子供たちの「個別最適な学び」と「協働的な学び」を活性化できる授業改善に取り組んでいく。

東小「デジタルワークショップ型」授業研究会

